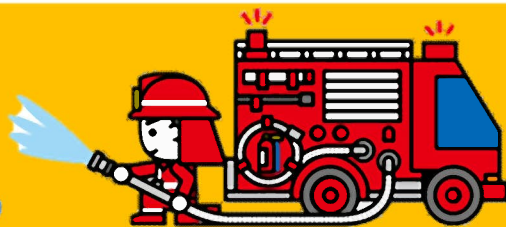




消防学校 ニュース



令和8年1月号

消防職員専科教育 火災調査科(第50期)

令和7年12月8日(月)から12月19日(金)まで、火災調査科を実施し、県内16消防本部(局)から46人の消防職員、静岡県警察本部から12人の警察職員の計58人が入校しました。

平成25年度から警察職員を受け入れ、校内で共同生活しながら教育訓練を実施しています。

消防は「原因調査」、警察は「犯罪捜査」と目的に違いはありますが、ともに安全で安心な街づくりを目指すことに変わりはありません。

学生は、原因調査関係法規、火災調査と裁判、原因調査要領、火災調査時の写真撮影要領、電気火災、車両構造、製品火災鑑識要領、損害調査、車両火災見分要領、製品模擬鑑識演習などの教育を受け、最後の集大成として燃やした模擬家屋の原因調査を実施し、調査書類の作成、そして発表までを行いました。



講話(学校長)



火災調査と裁判(諏訪部弁護士)



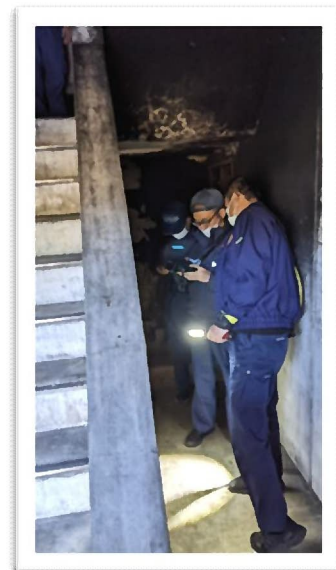
車両構造(自動車整備振興会)



通常点検



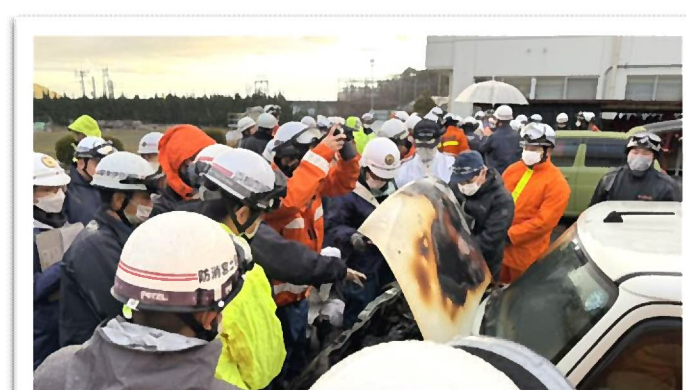
製品火災鑑識要領
(リチウムイオン電池の鑑識)



火災調査時の写真撮影要領



電気火災実験



車両火災見分要領



製品模擬鑑識演習(燃えた製品の見分)



製品模擬鑑識演習（デジタル顕微鏡の活用）



模擬家屋 事前燃焼（学生が座学中に実施）



模擬家屋の内部



模擬火災演習（巻き取り黒板での情報共有）



模擬火災演習（室内の見分）



書類作成

（担当教官コメント）

火災調査は、火災の原因と損害を明らかにするだけでなく、得られた知見を防火対策や行政施策に反映させる重要な業務です。近年は、建築材料の多様化や電化製品の高度化により出火原因が複雑化しており、科学的視点と実務経験の双方が求められます。本教育では、実践的な理解を深められるよう、前半の座学で知識を深め、後半の実習で実践するというカリキュラムとしました。

学生は互いに意見を交わしながら積極的に学び、必要な基礎知識や基礎技術を身につけていました。しかし、火災調査は2週間の教育で完結できるものではありません。今回得た知識と経験を土台として、今後も継続的に調査技術に磨きをかけ、指導的立場となる職員になっていただきたいと思います。

また、消防職員と警察職員が共に学んだ今回の教育は、互いの業務理解を深める貴重な機会となったかと思います。火災調査に限らず、消防と警察の業務は密接に関わっており、互いの協力が必要です。今回の交流をこの場限りにせず、今後に活かしていただきたいと思います。

最後になりますが、御支援いただいた講師、模擬家屋を建築していただいた常葉大学の方々、そして本教育に関わっていただいた全ての皆様に、心からの感謝を申し上げます。

教務課主査 鈴木 敏弘（富士市消防本部から派遣）

消防団員幹部教育指揮幹部科分団指揮課程(第11期)

令和7年12月14日(日)に指揮幹部科分団指揮課程を実施し、県内の消防団から幹部として分団の指揮を担う60人が参加し、事前のWEB講義と消防学校での訓練を受けました。

入校前には安全管理や消火戦術、林野火災対応及び消防団の活性化について等の動画によるオンライン学習で幅広い知識や情報を学びました。消防学校では、大規模災害図上シミュレーション訓練及びグループディスカッションとして「消防団の活性化について」と「火災現場の映像を用いた状況判断」について意見交換を行いました。



【大規模災害図上シミュレーション】



【グループディスカッション】

(担当教官コメント)

大規模災害図上シミュレーションでは、震災により次々に災害が発生し、情報が錯綜する混乱した場面において、情報を正確に整理し、確実に伝達する情報の流れについて訓練を行いました。限られた訓練回数の中でグループ内で積極的に意見を出し合い、改善に繋げていく姿は、流石の一言でした。

グループディスカッションでは、火災対応についてこれまでの経験や本業で培ってきた知識なども交えながら意見交換しており、私自身とても参考になるものでありました。また、消防団の活性化については各地域の特性や現状を情報共有しながら、自所属での取り組みや課題など活発な意見交換が実施されていました。本教育を通じて得た知識・情報を活用し、災害対応力の向上と消防団活動のさらなる充実を図り、地域住民の安全・安心に繋げていただきたいと思います。

教務課主査 鈴木 雅人(富士山南東消防本部から派遣)

消防大学校レポート

警防科第117期



令和7年 10 月 23 日(木)から 12 月 12 日(金)まで、消防大学校警防科第 117 期に入校しました。



指揮シミュレーション訓練



陽圧換気戦術



街区火災対応訓練



全国から集まった同期



警防科は「警防業務に関する高度な知識及び技術を専門的に習得させるとともに、教育指導者等としての資質を向上させること」を目的に年2回開催されている専科教育です。第 117 期は、北は北海道から、南は沖縄県までの 48 人の消防職員が集まり、濃密な 51 日間の教育訓練期間を過ごしました。

この教育訓練では、消防大学校が掲げている「最高峰の基礎」、「最先端の安全管理」を学ぶことができました。昨今、巷では様々な知識・技術・戦術の情報が溢れかえっており、自分自身含め派手な事柄に飛びつきやすい傾向があると感じています。しかし、現場において殉職事故や受傷事例が多数発生している今だからこそ、県消防学校の教育において必要なのは絶対的な基礎の部分であり、幹の部分であると再確認をしました。

また、全国から集まった同期達とは寝食を共にして問題意識の共有を図り、訓練において共に汗を流して異なる文化の擦り合わせを行い、かけがえのない人脈を構築することができました。

最後に、今回の研修で得た知識・技術を今一度咀嚼して、確実に自分のものにするとともに、全国に広がる同期の絆を最大限に活かして今後の県消防学校の教育訓練に全力で邁進していく所存であります。

教務課主査 田畑 誠（志太広域事務組合志太消防本部から派遣）

白鳥校長の一言（時事雑感）

三つの鏡

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、鏡開きの日のこと。校内の至るところに「鏡」があることに改めて気付きました。理由は説明するまでもありません。職員室前の「姿見」では、入校生が入念に服装の点検を行い、緊張した面持ちで入室する場面も多く、その光景を見るにつけ襟を正される思いをしています。

「鏡」と言って思い出すのは、「三つの鏡」の話です。唐の第二代皇帝の言行録『貞観政要』には、リーダーが持つべき「三つの鏡」の教えがあります。

一つめは「銅の鏡」です。これは姿を映す鏡のこと。初任科では、「心」が「形」を作り、「形」が「心」を整えとし、信頼される消防人たるべく服装や礼儀作法などを厳しく教えます。また、単に身だしなみを整えるだけでなく、「明るく生き生きしているか」など、自らの振る舞いが周りにどのように影響しているかを見省っていくことが必要だと自らに言い聞かせています。

二つめは「歴史の鏡」です。これは過去から学ぶこと。消防の世界でいえば、過去の災害等から様々な教訓を学び、将来に備えることともいえましょう。

三つめは「人の鏡」です。自分を正してくれる第三者の言葉にはしっかり耳を傾けていくことが大事であると教えてくれます。同時に、自分と相対する方は自分を映し出す鏡の役割を果たしてくれていることも教示しています。いわば「相手は鏡」です。ただしこの鏡の姿は、形で見えないこともあるだけに、心をよく研ぎ澄ませていないと気付かない可能性もあります。

これら「三つの鏡」を磨き、謙虚さを忘れず、歴史に学び、己を律する姿勢で、職員とともに消防学校のミッションを果たしていきたいと心新たにしています。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎: 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

